

# 雪対策の現状と、課題の解決に向けて取り組んでいくことを紹介します

## 札幌市の人口減少

札幌市は2021年から人口減少が始まり、2060年には現在よりも38万人ほど人口が減少する見込みです。経済活動を支える15～64歳の人口減少が著しく、少子高齢化もより進むことが予想され、税収の減少や働き手の不足など、さまざまな影響が懸念されます。

### 【札幌市の人口の見通し】

	2025年	2040年	2060年
全体	約197万人	約185万人	約159万人
15～64歳	約119万人	約102万人	約81万人
65歳以上	約58万人	約67万人	約65万人



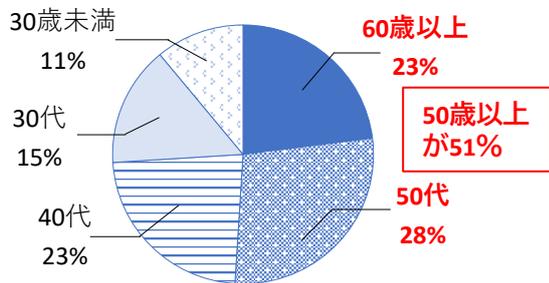
人口が減少する中でも、現在の規模を維持しなければならない市の公共サービスがあり、さまざまな分野に影響が出ることが予想されます。また、高齢者の人口が増えることで、介護サービスをはじめとする高齢福祉の費用のさらなる増加も見込まれます。

## 雪対策における課題

### ■ 従事者の担い手不足、高齢化

従事者のうち、50歳以上の割合が50%を超えており、20年後には多くが退職を迎えます。

#### 【除雪従事者の年齢構成】

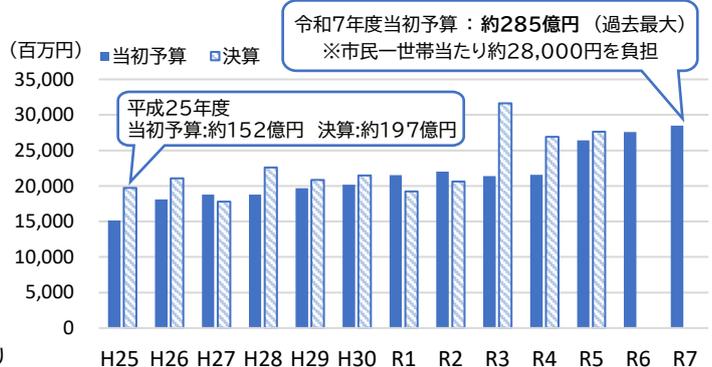


※令和4年度に実施した除雪従事者へのアンケートより

### ■ 雪対策費用の増加

税収の減少が見込まれる中、物価や燃料費の高騰などにより、年々増加しています。

#### 【平成25年度からの費用の推移】



雪対策の課題は他にも...

### ■ パートナーシップ排雪

住宅街などに面する生活道路の排雪費用を地域と行政が負担し合っていますが、地域での費用の負担感や不公平感が高まっています。

## 雪対策の今後の在り方の検討について

今後の雪対策の在り方について、この度のアンケートのほか、市民ワークショップや有識者などによる審議会などを通じて、市民の皆さんと一緒に考えていきます。

### 【検討する主な内容】

#### ■ 除排雪の今後の在り方

- ・冬の生活や経済活動に支障が出ないような道路の通行幅や路面の状態を今後も確保していくための除排雪の方法や体制
- ・将来的に税収の減少が見込まれる中で、年々増加している雪対策費用の負担をどうしていくべきか

#### ■ 雪と共生していくために

- ・人材や機材に限られた中で冬を快適に暮らせるようにするためには、行政、事業者、市民がそれぞれどのような役割を担っていくべきか
- ・大雪時には外出しない、在宅勤務をするといった、札幌ならではの冬の暮らし方や働き方